

第1号様式

市民との意見交換会・報告書

開催地区：北会津地区	開催日時：令和6年5月7日（火）	18時30分 ～ 20時00分
担当班：第4班（出席議員）讓矢隆、大島智子、小畑匠、古川雄一、横山淳、石田典男		
開催場所：北会津支所ピカリンホール		
参加人数：男性 6名、女性 0名、合計 6名（うち班外議員 0名）、（ほか、新潟県議会議員 1名傍聴）		
会場の雰囲気、次回に向けての反省点、申し送り事項など 1. 意見交換の総括 (1) 議会報告、市政全般についての総括 ① 2月定例会議について 特別会計を含む、予算、決算、事業について質疑があった。 ② 市政全般について（市のまちづくりに向けた課題） まちの拠点事業（県立病院跡地）、観光などについては行政の事業説明に終わらず、議会の立場で答えるように努めた。 (2) 地区別テーマについての総括 ① 地区別テーマ「地域防災について」 ② テーマ設定の理由、背景 大雨による水害対策、特に情報提供、避難、要支援者への支援体制など住民意識は高い。 ③ 主な地域課題 消防屯所、防災放送施設設備等の整備、阿賀川氾濫による水防訓練が地区全体に周知されなかった。		

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項
 (含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
三本松地区の第三工区について予算が出たのは、特別会計から出たのか一般会計からなのか。またいくらくらい出ているのか。	都市計画課より三本松地区宅地整備事業費特別会計として858万3,000円が計上されている。 令和6年度の予算は、皆さんの意見を聞き、調査設計等を含む予算となっている。	○	①		水季の里
会津大橋の進展がない。進捗状況を教えてほしい。	会津大橋は会津若松市と北会津村が合併した時に、県の事業として進めてきたもので事業主体は県となる。 市の建設委員会でも、神指地区の交差点まで工事が進んでいる状況について話をしている。 北会津では市の道路に接続されるが、予算は計上されていない。今後、市民の皆さんに分かりやすく説明するようにと考えている。	○	①	県事業	橋りょう
観光ビューローに関して、市は課題についてはば丸投げの状態が無責任ではないか。失敗はしないだろうが、成功もない。使ったお金に対しての効果の検証もなされないで、毎年予算がついているが、こんなやり方でいいのか。議会としての責任はないのか。議会としてそこに入っていくということはできないのか。	令和6年1月に予算決算委員会第3分科会と会津若松観光ビューローとで現状の課題や事業の進め方についての分野別意見交換会を開催した。 2月定例会議における予算決算委員会でも観光ビューロー等への委託に関してさまざまな議論があり、委託するメリット・デメリットは観光課でも把握しており、課題については、議会としても注視していくこととなった。 結果・効果の検証については市として取り組まなければならないと考えている。観光の入り込みの実績の把握は市がやるべきという議論もあり、議会としても観光の効果の検証は大事だと考えている。	○	①		観光
県立病院跡地に高齢者が一日楽しく遊べる場所を作ってほしい。	県立病院跡地については、子どもの屋内遊び場を核とした子育て支援施設、民間業者による賑わいのある収益施設ができる予定である。 今後どのような内容になるか決まっていくので、議会としても引き続き注視していく。	○	①		まちづくり

○ 地区別テーマでの意見交換について → 地域防災について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
数年前、区長から回ってきた資料の中で屯所や火の見櫓の撤去作業にはお金を出す、補修や新たに作るものにはお金は出さないとあった。そして今年は消防団が集まらないことで、実数が定数となった。 屯所は消防設備を格納するところではあるが、若い人が自由に集まるところでコミュニケーションの場となっている。消防団を集めようと努力している人がいる一方で、市は縮小していて矛盾を感じてる区長はいる。この地域をなんとか維持できないかと努力しているが市は反対のことをしている。 もっと住民の意見を吸い上げて欲しい。吸い上げるシステムを作ってほしい。	団員は従来は1,400人だったが、今回は1,200人となった。その原因としては担い手が少ない事と若者の人口減少や多様な就労形態による影響がある。 そして消防団員の役割は火事を消すだけではなく、安否確認、行方不明者の捜索、認知症の方の捜索など多岐多様になっている。市としても様々な努力や取組はしているが、それでも消防団員を確保できていないのが現状である。市としては定員1,200名のうち1,100名を消防団員とし、残り100名を機能別団員として補うことになった。 一番問題なのは災害が起きた時に十分かということである。地域自主防災組織であったり、福祉分野と連携を取って、援助者を支えるなど、福祉と学校と地域が連携してやろうとしているということで議会も納得をした。	○	①	
令和5年に危機管理課からの説明があり、令和6年から消防団の定員が縮小する連絡があった。 消防団が減った場合、救済、防災、減災ができるのか。団員になる人が少ないこともあるだろうが、予算がないということもあるのではないかな。	火の見櫓を全部見てきたが、確かに老朽化が激しい。現在市には約30の火の見櫓があり、取り壊すしかないところと補修予定のところがあり、半分近くは使える状況ではない。北会津地区では公民館にあるスピーカーで音声を流せるところがあったり、火の見櫓に登る危険性を避け公民館からの行政無線を使ったりといった事例があり、市民部と教育委員会が連携して対応していくと聞いており、注視していく。	○	①	

○ 地区別テーマでの意見交換について → 地域防災について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
私は天神町で地域防災組織を立ち上げており、2年前にこちらで自主防災組織の話しをさせて頂いたこともあり、その後はどうなっているかと参加した。 地域で防災組織を立ち上げ、そこで活動するのがよいと考えている。誰かにお願いするのではなく自助、共助、公助とあるが、その中の共助をしっかりやるとコミュニティ作りにも非常に役に立つ。地区ごとに活動できるので、災害があっても日ごろから顔を見合わせておくことにもなる。最近では安否確認も進めている。 災害時応援協定の種類や相手先について一般質問していたようだが、リエゾン（協定による災害対策本部等との連絡要員）についてはどのように考えているのか。 災害時の国や県等とのつながりは、市としてどのように考えるているのか。また、市はVACAN（他自治体が導入している避難所の開設状況や混雑状況をスマホやパソコンで確認できるシステム）の導入を考えているのか。	災害時の協定について、リエゾンという言葉は使っていないが、市は、他自治体、県、国と連携を進めており、事業所や企業との災害時連携協定も進めている。 昨年阿賀川で国の防災・水防訓練が行われ、民間企業が多く参加していた。 これから地域防災を進める上で住民の方々の協力を頂かないとできないことである。議会や市の取組を紹介したが、引き続きご意見を伺いたい。 スマートフォン等の情報機器と行政の情報との連携については、議会も話を聞いていきたい。	○	①	

○ 地区別テーマでの意見交換について → 地域防災について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
昨年、県の防災訓練があった。今、地元住民の協力が一番大事だと話があった。しかし県の防災訓練は我々には一切連絡はなかった。真宮近辺には連絡があったようだが、北会津全体としては連絡がなかった。そんなやり方で、住民を巻き込んだ防災訓練になっているのか。防災訓練とは住民がやるものであって、関係者だけでやるのは違うのではないか。 また、令和6年度の市の取組は、具体的にどんなことを行うのか。	学校関連も参加していたので、しっかり北会津に周知されているのだと思っていた。このことは決算審査等でチェックしていく。 令和6年度における防災関係の予算の概要だが、まず消防団の報酬を上げている。消防屯所の環境整備、防火水槽の安全確保、火の見櫓の解体工事、小型ポンプ積載車2台購入、消火栓の改修、防災会議等で市民と意見交換をするワークショップの開催、防災無線等々に予算3,000万円を計上している。そして避難所のご飯やミルク、毛布で700万円、また自主防災組織設置補助金に450万円ほどを予定している。	○	①	
常時防火水槽に水が溜まっているので、それをくみ出す仕組みがあれば、それを災害時に飲料水ではなく生活用水として使えるのではないか。	地震が起きても壊れない強い水道管の整備を行っており、市では防火水槽を災害時に生活用水に使う検討をしていない。	○	①	

○ 地区別テーマでの意見交換について → 地域防災について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
危機管理課より、毎年区長に避難行動要支援者名簿が届くが、この名簿をもらっただけで、どうしたらいいのか説明・指導がない。区長はその名簿が届いてもどうしたらいいかわからない。ありがた迷惑である。使い方などをしっかり指導してほしい。	北会津地区では危機管理課と地域包括支援センターが主体となってその働きかけでもって、その名簿をどう使っていくのか模索している状況だと思う。 大戸地区の取組の紹介になるが、防災士を呼んで地域で何回か話しをしたと伺った。そして地域で危ない箇所をそれぞれが歩いて調べて地域ごとに防災マップを作った。専門の方に話を聞き、地域意識づけやはり自主防災組織を作ることが大事だと考える。	○	②	
要支援者名簿は市とかではなくて、我々が住んでいるところで災害発生したときに安否確認をするために名簿を見て、一人も取り残されることがないように声掛けするのに使用している。		○	①	
危機管理課と地域包括支援センターで、自主防災組織を含めた地域の個別避難計画を策定しているところである。 危機管理課も要支援者名簿をほとんどの自治会では活用できてないことは把握しており、そもそも防災意識の向上が図れていないのではないかと危機管理課と話し合っている。そこで、防災意識を高めるための防災ミニケア会議を充実させていきたい考えで、予算が出てるのではないかと思います。 活用方法についても地区の区長と相談する場を設けるところからやっていきたい。まずは三本松地区から進めようと話し合いをしている。		○	①	

○ 地区別テーマでの意見交換について → 地域防災について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
蟹川地区の自主防災組織は2年前に立ち上がったそうだが、確認したら当時の区長は情報が伝達が伝わっていなかったそうで、現在あるかどうか分からないとのこと。今年の区長に聞いても、自主防災組織があるか分からなかった。区長が一年で代わってしまうと組織が継続させることに課題がある。地域で育んでいきたいと思うがそれが難しい体制となっている。また、何かがあると区長、民生委員にあれもこれも頼んでくるのが非常に多すぎる。私たちもその二つの役職に何かお願いするのが苦しくなる。行政の中には色々な課があるが、何でも各々が各々で区長でいいか、民生委員でいいかとなっている。それぞれを支援する支援が必要ではないか。これでは担い手もいなくなる。福祉分野からの意見。	役職に就くととその方ばかりに負担がかかってしまうという本当によくない状況であり、課題として認識している。	○	②	